



清水けんいち 市政レポート

政策討議資料
第30号
2015年4月

平成27年度がスタートしました。

【ご挨拶】

皆様の、日頃からのご支援ご協力に、心より感謝申し上げます。市議会議員として2期8年間、日々、市民生活向上のため、深谷市発展のため活動しております。議員活動を市民皆様に御報告する事で、少しでも開かれた政治にしていきたい。皆様と力を合わせて「住みやすく・暮らしやすく・子育てしやすい街」深谷を実現していきたい！そんな思いで、これまで「市政レポート」を発行して参りました。

これからも、皆様のご支援ご協力を心からお願い申し上げます。

【議会報告】

深谷市議会 平成27年度 第1回定例会3月議会が終了しました。

主な議案

- ・平成27年度一般会計予算（可決）
 - ・深谷市下水道条例の一部を改正する条例（可決）
 - ・特定教育・保育施設の利用者負担額等に関する条例（可決）
 - ・第2次地域福祉計画の策定について（可決）
 - ・平成26年度一般会計補正予算（第9号）（可決）
 - ・平成26年度一般会計補正予算（第10号）（可決）
- （他、市長提出議案29件・議員提出議案1件）

新年度予算の概要

平成27年度一般会計当初予算は、466億3,991万3千円で、前年と比較し、24億4,933万9千円の減（▲5%）となりました。この減額は、平成28年度以降、地方交付税の割増措置をはじめとする合併優遇措置の段階的縮小により歳入（収入）が先細りする一方、歳出面（支出）は、右肩上がりが増え続ける社会保障関係経費の増加に歯止めが掛けられず、厳しい財政運営が予想されることから、既存事業について、ゼロベースから見直しをした結果です。

《ここに注目パート1》 “議員定数削減で痛みを分かち合う”

議員定数は26名でしたが、厳しい財政状況を考慮し、12月議会において、私も賛成者となり2名の削減が賛成多数で決定しました。2名削減による効果は4年間で約6,360万円です。



厳しい財政状況を考えると事業の廃止や見直しは必要と考えますが、もう少し議論が必要なのではというのが見受けられます。例えば「高齢者慶祝事業」ですが、喜寿・米寿・白寿を迎えた方に支給されます「敬老祝い金」が廃止されましたが、永年にわたり国や市の発

展のため貢献いただいた高齢者の方々に優しい市政運営を行う意味でも、現在の敬老会の実施方法を大きな施設で行うのではなく、自治会単位の地元で行って頂くなどして経費を抑えることができないかなど検討すべきだと思います。高齢者の方々は、会場に行くにも交通手段がなく参加できない方も多く見受けられます。そうした提言を行って参ります。

《ここに注目パート2》 “市役所本庁舎建設に向けて”

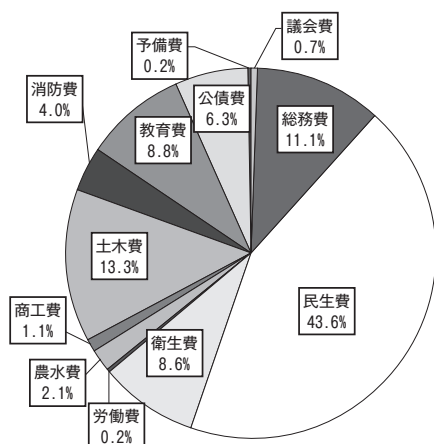
市役所本庁舎は耐震性が不足していることから、万一の大規模地震の際、防災拠点施設としての役割が果たせない状況にあります。また、現庁舎は昭和41年に建設されたもので老朽化や狭あい化、分散化による市民サービスの低下や事務の非効率などの問題もあり、合併特例債※が利用できる平成32年度の完成を目指し、現在の建物を残し国道17号側に建設し、引越しが終わったら現庁舎を取り壊す予定で建て替える事が決定しております。予想では6階建てか7階建てになると思います。それに向け、今年度は約2,430万円の予算で建設基本計画が策定されます。

※合併特例債とは＝合併した市町村が合併後10年間（震災により15年間に限り使える地方債（借金）で、行う事業費の95%までを借り入れることができ、元利償還金（元金と利子を合わせて返すお金）の70%が普通交付税で市に入ってくる有利なものです。例えば、1億円を合併特例債（年利1.2%、20年返済で試算）で借り入れると、返済総額は1億1千2百万円になりますが、普通交付税として国から約7千8百万円が市に入ってきますので、市の負担は約3千4百万円で済むことになります。この有利な合併特例債が利用できる間に行うことで将来負担を軽減することが出来るのです。



平成27年度一般会計歳出予算款別内訳

款別内訳



(款別)

(単位：千円、%)

款	予算額	構成比	款	予算額	構成比
1 議会費	336,698	0.7	8 土木費	6,182,216	13.3
2 総務費	5,199,934	11.1	9 消防費	1,862,450	4.0
3 民生費	20,332,821	43.6	10 教育費	4,089,736	8.8
4 衛生費	4,019,517	8.6	11 公債費	2,944,933	6.3
5 労働費	96,246	0.2	12 予備費	70,000	0.2
6 農林水産業費	980,488	2.1			
7 商工費	524,874	1.1	合計	46,639,913	100.0

3月11日 清水健一の 一般質問と答弁(要約)



「園 日々に涉りて 以って趣を成す」(園日涉以成趣)

郷土の偉人「渋沢栄一翁」が残された言葉が、産業会館東側にある石碑に刻まれています。我が愛する故郷・深谷が、将来に涉り「明るく豊かな、魅力ある街であって欲しい」私はそう解釈しております。

議席番号15番・清水健一、発言通告書に基づき質問に入ります。

質問1 “深谷市の未来について”

人口減少問題や少子高齢化などへの対応は、国はもとより、我が深谷市でも大きな局面に差し掛かっています。そこで国では地方創生と称し「まち・ひと・しごと創生法」を昨年11月に公布施行しました。その中の緊急的な取組みとして「地域住民生活等緊急支援のための交付金(地域消費喚起・生活支援型)(地方創生先行型)」が予定され、消費喚起型では深谷市の交付限度額が1億8,480万円と聞いているが、どのような事業を行うのかお尋ね致します。

答弁 消費喚起型交付金では、2割のプレミアム付商品券発行事業を行い、総販売額は12億円を予定しております。また、多子世帯向け商品券支給事業(平成8年4月2日以降に生まれたものが同一世帯に3人以上いる世帯・1世帯1万円)を実施します。その他、地方創生先行型交付金では、「地方版総合戦略の策定事業」の他、11事業を予定しております。

再質問 プレミアム付商品券の利用期間はどうか?

再答弁 夏・冬のボーナス支給や年末商戦など消費需要が高まる期間を目指し、平成27年7月から12月までの予定としています。

再々質問 地方版総合戦略は、簡単に言えば、人口減少を抑えるための施策であり、安定した雇用を創出し、新しい人の流れをつくり、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る。ということだと思いますが、どのように策定して行くのか考えを聞かせて下さい。

再々答弁 地方版総合戦略は、幅広い年齢層からなる住民をはじめ、産業界・行政機関・金融機関・労働団体・メディア等で構成する推進組織で協議を行い、27年度中に策定いたします。

プレミアム付商品券発行事業は、ある意味「バラマキ」ですが、国からの指示で全国一斉に同様の施策が実施されます。私には、消費税10%へ向けての準備としか思えません。一方、地方版総合戦略は非常に大切なもので、これにより深谷市の将来が左右されると言っても過言ではありません。私自身、この戦略策定には積極的に関わって行きたいと考えております。

質問2 教育力と学力の向上について

全国学力状況調査において、毎回トップを争う福井県は、全国体力運動能力テストでもトップクラスです。そこで、福井県を調べたのですが、「早寝・早起き・朝ごはん」が当たり前に行っている家庭がほとんどで、例えば、「朝7時までに起きる」子どもの割合は小学6年生で93.4%、中学3年生で85.6%と全国平均を大きく上回っております。また、夫婦共働き率58.2%、女性の就業率51.6%、いずれも全国トップです。お父さんやお母さんが、よ

く働くことができるのは、実は「おじいさん」や「おばあさん」の子育てサポートのお陰なのです。福井県の3世代世帯の割合は、全国2位の17.6%です。家庭の教育力向上に不可欠なのは周囲のサポートであり、福井県では、両親や祖父母が協力して、その当たり前前の務めを実践している結果、子どもたちの学力向上に結びついていると思いますが、教育委員会の見識をお聞かせ下さい。

答弁 市内小中学校の全国学力状況調査の結果は、概ね良好ではありますが、議員お話のように、児童生徒の学力向上と家庭や地域の教育力は密接な関係があることは、様々な研究結果から把握をしております。当市といたしましても、家庭や地域と学校が緊密な連携を図りながら、教育力向上に努めて参ります。



清水の 私見

福井県と学力調査でトップを争う秋田県は、40年前までは、下位に沈んでいましたが、試行錯誤を繰り返してトップに立ちました。教育は長期的な展望を持ち、ある意味「深谷市教育の伝統」のようなものを創り上げていかなければと考えております。具体的な提言は、もう少し研究してから行わせていただきます。

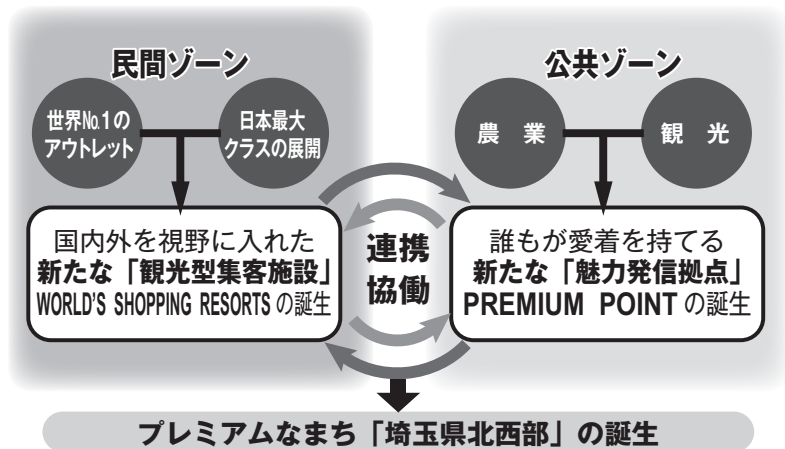
アウトレットモール・優先協議者決定!

市では、厳しい経済・財政状況を踏まえ、継続的に自主財源を確保し、自立性を維持するため、観光と農業を主軸とする経済の活性化を図る目的で「花園IC拠点整備プロジェクト」を進めてきました。そして、この度、選考の結果「三菱地所・サイモン(株)」(以下、サイモンG)が優先協議者に決定し基本協定が締結されます。サイモンGが他に運営しているアウトレットは佐野プレミアムアウトレットなどです。

市の初期投資額約48億9千万円が合併特例債を活用した場合、約7年で回収でき、一般起債でも約8年で回収できるという収支計画が示されました。その後得られた収益が福祉や医療、教育に活かされれば、未来を担う子どもたちにも有益なものであると思います。

「世界NO.1で日本最大クラスのアウトレット ～プレミアムな街「埼玉県北西部」の誕生～」

サイモンGの事業提案には、上記の文言が記されており、子供、高齢者に使いやすいだけでなく、インバウンド集客(訪日外国人集客)にも対応し、外国人にも使いやすいデザイン・サインを導入した施設とするというものでした。今年度は秩父線小前田駅と永田駅の間に新駅を作り、アウトレットのオープンは平成30年度を目指し動き始めました。予想ではオープン時のテナント数と従業員数は約120店舗、約1200名程度となるでしょう。



清水健一連絡先

〒369-1246 深谷市小前田2406-8
TEL 048-584-0717

FAX 048-584-0396

ホームページ: <http://www.shimizu-kenichi.jp> (ブログ公開中)

E-mail: info@shimizu-kenichi.jp



プロフィール

昭和36年1月27日生まれ(54才)

家族構成 父、妻、長男、長男妻、長女、次女、孫(8人家族)

- 埼玉県立熊谷工業高校 卒業
- 社団法人深谷青年会議所 第35代理事長
- 深谷市PTA連合会 会長
- 深谷市立花園小学校 PTA会長
- 深谷市立花園中学校 PTA会長
- 埼玉県立深谷高校 PTA会長
- ◎ ふかや市商工会 理事
- 深谷市議会 副議長

このレポートは旧花園地域には折込により全戸配布しており、他の地域の皆様には年2回郵送させていただきます。郵送希望の方を紹介していただければ郵送させていただきますのでFAXやメールでは是非、御紹介して下さい。